

第5回

魚沼地区

みどりの1%推進運動リレーワークショップ 「みどりのチカラ」フリートークの報告

日時；平成19年7月26日 会場；六日町ニューホテルこしじ荘一 参加者；8名
作成；(社)新潟県公園緑地建設業協会
TEL025-282-4460 FAX025-282-4461
E-mail niigataken@koryoku.or.jp

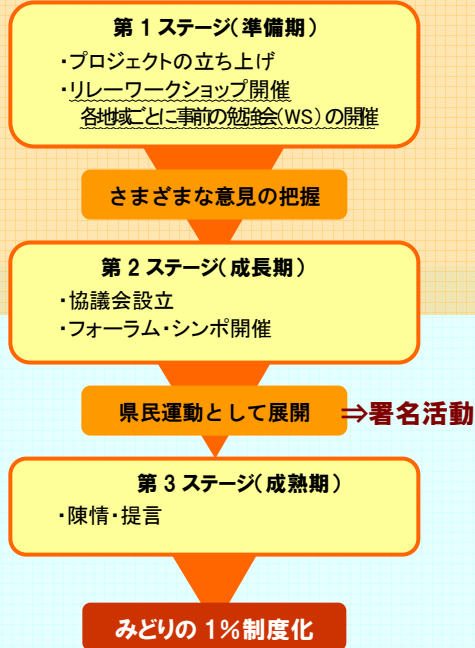
第5回プログラム

- 14:00 開会の挨拶
〔第1部〕
- 14:05 新潟県緑花推進計画
「新たな5ヵ年計画」
概要説明
- 〔第2部〕
- 14:20 グループ討議
- 15:40 グループ発表
- 16:00 閉会の挨拶

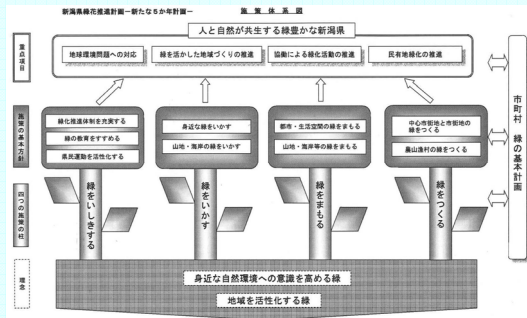
■ 「みどりのチカラ」フリートークについて

- ★ フリートークは、「みどりの1%推進運動」を現実化させるための基礎情報として、県内のみどりに関する方々から「みどり」について日常感じている様々な意見を出していただき、「課題の共有化」と「目標の共有化」を図っていきます。
- ★ そしてこのフリートークの基礎情報が、今後県民運動として展開していく、ワークショップ開催へと導いていく重要な「地域への投げかけ」の第1歩となります。

みどりの1%推進運動の流れ



第1部 新潟県緑花推進計画「新たな5ヵ年計画」の概要説明



▲新潟県緑花推進計画 —新たな5ヵ年計画—

第2部 「みどりのチカラ」フリートーク

参加者のみなさんと「地域のみどり」を中心に、自由討議を行いました。

1. 「みどりのチカラ」のおさらい。
2. 「みどりのチカラ」を考える。
3. 「みどりの1%推進運動に向けた取り組み」を考える。
みどりの活用方法。地域への啓蒙・啓発など参加者のみなさんが様々なアイデアを出しあいました。

- ★ みどりに囲まれた魚沼地区、山のみどり、都市のみどり、豪雪地のみどりの、価値観について活発な意見交換を行いました。



▲フリートークの様子

■ みなさんから出された意見。

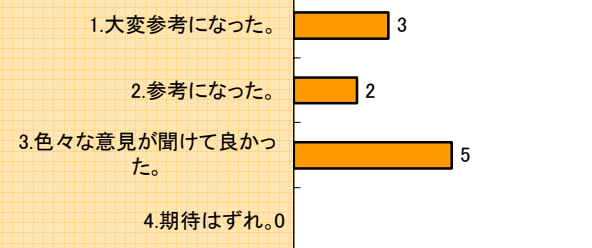
- ・ 病弱なお年寄りのいる家庭に、参加型の庭づくりを試みたらお年寄りが元気になった。まさに、五感を刺激するセンサーガーデンのチカラが立証された。
- ・ 近年は、家と庭という語句から、家と族にという活字が多く使われようになった。核家族の顕著な表れだろう。
- ・ 一方で心の豊かさを求める中央都市部では、本物思考“家庭”というみどりととの関りがステータスである。
- ・ “愛”直江兼継(NHK大河ドラマ“天地人”)のFCを切口とした、ランドスケープの視点でまちづくりを考えていきたい。
- ・ 行政自体に、“みどり”の認識がなさすぎる。
- ・ 民間企業(例ジャスコ)も、地元の意見を大切に、緑化事業に反映させるべき。
- ・ 民間企業においても、“みどり”に対する維持管理予算を設けていないのが現状。
- ・ 豪雪地としての緑化の維持管理を考えた提案をしていない。例えば、除雪、堆雪スペース、人や車輛の動線など全く無視した、押し売りの提案が見受けられる。
- ・ 子供は水のあるところに“あそび”を求めている。十日町の人六日町の公園に遊びに行っている。みどりだけでなく“水”というキーワードも一体として考えていきたい。
- ・ 六日町は、街路樹が少ない(アーケードがあるから)。せめてプランターなどで、まちを美しくしていきたい。
- ・ 観光という切口からみどりをもっと活かすべき(花見山公園の事例等)。
- ・ 長寿社会に向けたみどりが果たす医療費の軽減事例(愛地球博)。
- ・ みどりが果たす役割は、造園人としてしっかりとした理論武装を持つべきである。

■ 参考 「みどりのチカラ」グループ討議をふりかえって

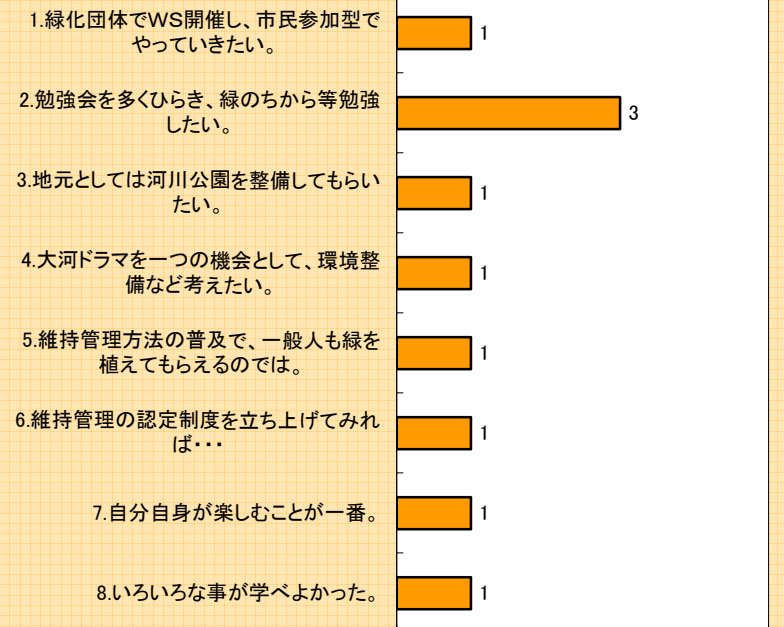
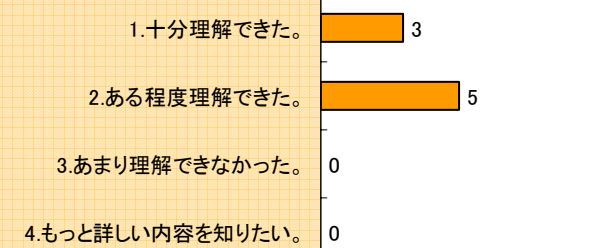
「みどりのチカラ」グループ討議終了時、「ふりかえりシート」を参加者のみなさんに記入して頂きました。主な意見は以下のとおりです。

Q3 みどりの1%推進運動WSに参加した感想。

Q1 今回のワークショップに参加してどのように感じましたか？



Q2 新潟県緑花推進計画「新たな5ヵ年計画」についての説明はいかがでしたか？



※複数回答及び無回答があったため参加者数と整合しない。